PHILIPS

Healthcare

Lumify

在宅医療：エコーは “1人1台” の時代が到来

医療法人かがやき　総合在宅医療クリニック

市橋 亮一　院長

藤井 浩史　先生

2009年に岐阜県初の在宅医療専門クリニックとしてスタートした医療法人かがやきでは、現在4台の携帯型超音波診断装置Lumifyが稼働しています。医師全員が必ず超音波診断装置を持って診療を行っており、超音波検査は診療に欠かせない存在だそうです。在宅医療における携帯型超音波診断装置の活用法についてお話を伺いました。

在宅医療は、訪問のテーマが毎回異なり、奥行きが味わい深いです

在宅医療の道へ進んだきっかけを教えてください

市橋院長（以下敬称略）：高校のラグビー部で鎖骨骨折をしたときに、診療所の先生がわざわざ夜に往診をしてくれたことが医師になるきっかけでした。病院では患者様が病気でマイナスになったところをゼロにするところまでですが、本当は幸せになるために相談をされているのだと思います。体に病があっても幸せになる方法はいくつもあるので、それを在宅医療で同時に叶えるのはいいと思いました。急性期の対応はアルゴリズムで決まっている部分が多いですが、慢性期は患者様の背景や1回1回の訪問テーマが全て異なり、奥行きがすごく味わい深いと思い在宅医療のグループ診療を立ち上げました。今は、常勤医師4名、非常勤11名、スタッフは53名で運営をしており、約300名の患者様を診ています。

グッドデザイン金賞を受賞した「かがやきロッジ」

医療連携がしやすく在宅医療に適した環境ですが、まだたどり着けていない患者様もいます

岐阜県の地域医療の現状を教えてください

市橋：人口約60万人の中にホスピスは4カ所、在宅医療専門クリニックも複数から選べます。大きな病院は4つしかないので連携もしやすく、症例の振り返りやカンファレンスも開催しています。スタッフ全員の顔が見えるので在宅医療のクオリティが上がりやすいという環境的要因もあり、岐阜県の自宅での看取り率は20%と全国平均の13%を上回っています。人口の6割は在宅医療が可能だと思っていますが、見えていない、たどり着けていない患者様もいらっしゃいます。在宅医療がある程度普及してくれれば、病院の救急外来のマネージメントも有利になり、ホスピスも必要な方に入っていただくことができるようになるので、全体の資源の有効活用ができるようになりますね。

コロナ禍前には、毎月子ども食堂を実施して地域の親子が集っていた

発熱時の熱源精査はエコーで。1人1台で、診療のクオリティが上がりました

在宅医療における超音波診断装置のニーズと役割を教えてください

市橋：1960年代は循環器医が使っていたエコーも、私が研修医になった2000年ころには集中治療医が使いはじめ、その後は看護師と、いまや全医療者がエコーを使う時代になりました。実際、今どきの研修医は全員ファストエコーができます。そこで、1人1台エコーを配布すればいいのではないかと思い、診察に必ず持っていけるように現在7台が稼働しています。

藤井：発熱時の熱源の精査や腹水穿刺ではエコーが必須です。そのほか胸水、胆嚢のボリューム、IVCの評価などで使用しています。病院に行くことが最適なのか、治療方針決定のための最低限のスクリーニングがその場で行えます。また、心不全になって体調を崩す方もいるのでスクリーニングとしての心臓のエコーも行っています。心臓の評価は病院の検査所見だけでは何とも言えない部分も多いので、以前自分が診たときと変わりないか比較ができるところもメリットです。また、客観的な画像評価として、患者様に説明できる点でもエコーの存在は大きいと思います。

藤井先生による診療の様子

Lumifyの外観とトランスジューサ

在宅医療は検査シチュエーションがさまざま。画質がきれいだと手技の習熟も楽しくできます

携帯型超音波診断装置 Lumifyを採用した理由を教えてください

藤井：コストはもちろんなのですが、検査のシチュエーションがさまざまなのでトランスジューサはコンベックス・リニア・セクタの3本が欲しいと思っていました。Mモードまで撮れる携帯型超音波診断装置もなかなかなく、荷物にならず持ち運びが簡単なことに加え、心臓を診るにあたり動画までしっかり撮れることもポイントでした。また、一日に多くの診療を行うのでバッテリーの残量を気にすることなく使用できる点も助かっています。フィリップスはもともと心臓の画像がきれいだったので、市橋先生に相談したところ即決でした。

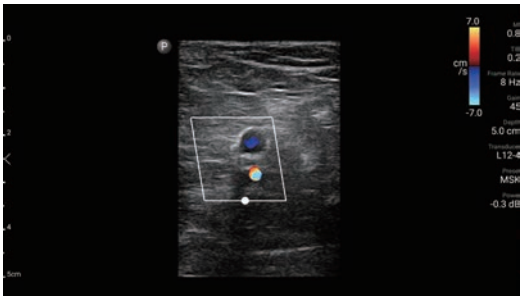
市橋：1台購入してよかったので、そのあと3台を追加しました。若手の医師も使いたくなるもので、「救急外来のエコーよりきれい」とのコメントもありました。手技を習熟するのに楽しくできれば診療全体に及ぼすインパクトは大きいので、多少コストがかかっても仕方ないかなと思っています。年間15名の研修医を受け入れていますが、研修医からもエコーがあるほうが診察しやすいと聞いています。

在宅医療ではまさにPOCUS、エコー習熟のチャンス

藤井：エコーの講習会なども開催しており、研修医や医学生などいろいろな人とのつながりも増えました。研修医でも救急外来でエコーを行いますが、当て方を知っているのと、当てたことがあるのとでは経験値として全然違いますし、多くの患者様で実践してこそ学ぶこともあると思います。在宅医療では余裕を持っていろいろな人に当てることができ、うまく描出する機会をたくさん得るチャンスにもなると思います。

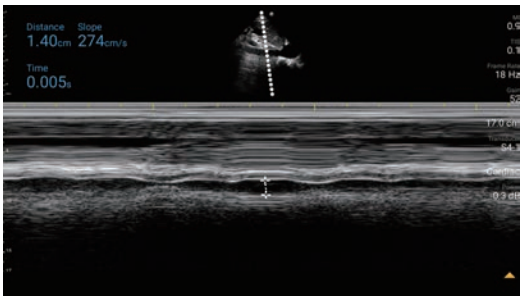
市橋：エコーは全医療者が行うことが世界標準になっており、診療クオリティも上がるので、やらない理由はないと思っています。エコーでは、何を診るのかは重みづけてやっていく必要はありますが、より奥行きのある在宅医療になるので有難いと思います。エコーを使いこなして、楽しく、チームで学ぶ。在宅医療にエコーは1人1台の時代の到来を感じています。

腹水

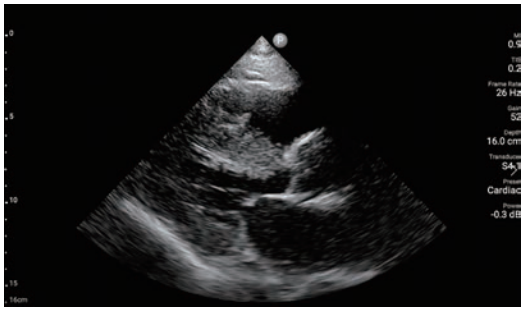


膝下静脈

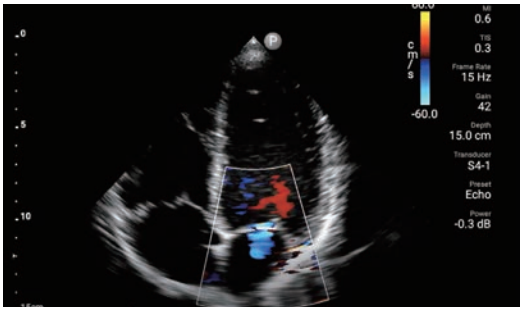
下大静脈



下大静脈 Mモード

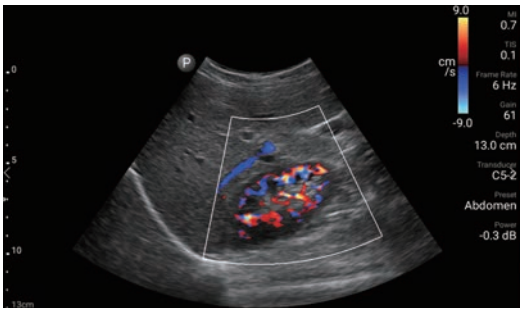


心臓



心臓カラードプラ

肝臓と腎臓



腎血流

市橋院長、藤井先生、ありがとうございました。

製造販売業者

株式会社フィリップス・ジャパン

〒108-8507　東京都港区港南 2-13-37 フィリップスビル

お客様窓口　0120-556-494

03-3740-3213

受付時間　9:00～18:00(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

www.philips.co.jp/healthcare

販売名：超音波画像診断装置　Lumify

医療機器認証番号：302AFBZX00043000

特定保守管理医療機器／管理医療機器

改良などの理由により予告なしに意匠、仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくは「お客様窓口」までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名詞は、Koninklijke Philips N.V. またはその他の会社の商標または登録商標です。

©2022 Koninklijke Philips N.V.

2108365
1221PDF01-TP Printed in Japan